

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	日常生活活動学-①		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	403号室、5F実習室など
担 当 教 員	竹内 知仁	実務経験とその関連資格	作業療法士として病院・施設・地域で作業療法を必要とする対象者に対して作業療法評価から治療を実践してきた。MTDLP実践者研修終了			
《授業科目における学習内容》						
作業療法士は生活の専門家と言っても過言ではない。対象者の作業・課題遂行上の問題を明確化・解釈して原因を推察していく一連の臨床思考過程には、ヒトの身体・運動機能の理解、運動・動作の分析的視点、異常運動を見極める観察眼やその原因を分析する思考力が必要であり、運動学的知識だけでなく状況判断・意思決定のための高次脳機能の理解が必須となる。本科目ではその基本的部分が理解できるよう、生活についてICFを通して考え、特に活動面(能力)の評価や観察による分析評価、介護と治療的介入の違いなどについて講義・実技・演習を通して学習していく。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題45%、筆記試験50%、準備・態度5%で評定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
■教科書: 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習(中山書店) ■参考書: 動作分析 臨床活用講座ーバイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 作業療法評価学や身体障害治療学・老年期障害治療学などで利用する教科書や配布資料						
《授業外における学習方法》						
基本的に次の通り。 【事前学習】課題・学習内容の確認。 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。レポート課題がある場合には課題を実施。						
《履修に当たっての留意点》						
・課題内容は、臨床実習での観察記録等のレポート課題の遂行能力を高めるものとなる。 ・服装に関してはジャージとし靴下は白とする。その他身だしなみについては「機能訓練室・治療室での実習時のみなりについて」を参照。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ADL(日常生活活動)の意味を理解する。・手段的ADL(IADL)、生活関連活動(APDL)の意味を理解する。・ADL□に影響を与える因子についてICFを通じて理解する。・ADLに対するアプローチの方法を検討する。		教科書、配布資料	【事前学習】シラバス内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(40分)
	各コマにおける授業予定	ADL総論 ADLやAPDLとは何か学習し、国際生活機能分類(ICF)におけるADLの位置づけやADLをリハビリテーションの対象とする場合の注意事項について学ぶ。				
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・ADLを評価する目的と、その必要性を理解する。・ADLを評価する具体的な方法を理解する。・ADLの構造とADLの評価指標との関連性を理解する。・身近な動作をもとに、ADL評価方法ならびに点数化の手		教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
	各コマにおける授業予定	ADL評価 ADL評価の目的と必要性、方法について理解し、特徴を説明できる				
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・ADLを評価する目的と、その必要性を理解する。・ADLを評価する具体的な方法を理解する。・ADLの構造とADLの評価指標との関連性を理解する。・身近な動作をもとに、ADL評価方法ならびに点数化の手		教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	ADL評価 ADL評価の目的と必要性、方法について理解し、特徴を説明できる				
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・ADLを評価する目的と、その必要性を理解する。・ADLを評価する具体的な方法を理解する。・ADLの構造とADLの評価指標との関連性を理解する。・身近な動作をもとに、ADL評価方法ならびに点数化の手		教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	ADL評価 ADL評価の目的と必要性、方法について理解し、事例を用いて各種ADL評価を実践できる。				
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・姿勢の種類とその特徴を理解する。・起居移動、床上動作の意義を理解する。・起居移動、床上動作の種類と実施におけるポイント、注意点を理解する。・基本的な起居移動・床上動作の指導ポイントを検討		教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	姿勢・起居移動・床上動作 姿勢の種類や起居移動・症状動作・移乗動作のパターンについて理解する。また、各動作の評価や介助方法について学ぶ。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・姿勢の種類とその特徴を理解する。・起居移動、床上動作の意義を理解する。・起居移動、床上動作の種類と実施におけるポイント、注意点を理解する。・基本的な起居移動・床上動作の指導ポイントを検討する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	姿勢・起居移動・床上動作 姿勢の種類や起居移動・症状動作・移乗動作のパターンについて理解する。また、各動作の評価や介助方法について学ぶ。			
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・姿勢の種類とその特徴を理解する。・起居移動、床上動作の意義を理解する。・起居移動、床上動作の種類と実施におけるポイント、注意点を理解する。・基本的な起居移動・床上動作の指導ポイントを検討する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	姿勢・起居移動・床上動作 姿勢の種類や起居移動・症状動作・移乗動作のパターンについて理解する。また、各動作の評価や介助方法について学ぶ。			
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・姿勢の種類とその特徴を理解する。・起居移動、床上動作の意義を理解する。・起居移動、床上動作の種類と実施におけるポイント、注意点を理解する。・基本的な起居移動・床上動作の指導ポイントを検討する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通して置く。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
	各コマにおける授業予定	姿勢・起居移動・床上動作 姿勢の種類や起居移動・症状動作・移乗動作のパターンについて理解する。また、各動作の評価や介助方法について学ぶ。			
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・姿勢の種類とその特徴を理解する。・起居移動、床上動作の意義を理解する。・起居移動、床上動作の種類と実施におけるポイント、注意点を理解する。・基本的な起居移動・床上動作の指導ポイントを検討する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	姿勢・起居移動・床上動作 姿勢の種類や起居移動・症状動作・移乗動作のパターンについて理解する。また、各動作の評価や介助方法について学ぶ。			
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・姿勢の種類とその特徴を理解する。・起居移動、床上動作の意義を理解する。・起居移動、床上動作の種類と実施におけるポイント、注意点を理解する。・基本的な起居移動・床上動作の指導ポイントを検討する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通して置く。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
	各コマにおける授業予定	姿勢・起居移動・床上動作 姿勢の種類や起居移動・症状動作・移乗動作のパターンについて理解する。また、各動作の評価や介助方法について学ぶ。			
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・補助具を用いた歩行パターンおよび段差昇降パターンを理解する。歩行動作に使用する補助具の種類と特徴を理解する。・歩行動作を指導する前の重要な項目について理解する。・補助具を用いた歩行および段差昇降の方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	歩行動作と歩行補助具 歩行動作と歩行補助具の基本事項について理解し、歩行評価の留意点や各疾患における歩行の特徴と介入について学ぶ。また、歩行、段差昇降について実習課題を用いて学ぶ。			
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・補助具を用いた歩行パターンおよび段差昇降パターンを理解する。歩行動作に使用する補助具の種類と特徴を理解する。・歩行動作を指導する前の重要な項目について理解する。・補助具を用いた歩行および段差昇降の方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	歩行動作と歩行補助具 歩行動作と歩行補助具の基本事項について理解し、歩行評価の留意点や各疾患における歩行の特徴と介入について学ぶ。また、歩行、段差昇降について実習課題を用いて学ぶ。			
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・車椅子自走における屋内・屋外移動時の注意点を理解する。・車椅子利用者の障害に配慮した適切な解除方法を理解する。・視覚障害者の移動時の介助方法と指導方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	移動動作(車椅子移動) 車椅子移動の基本事項、公共交通機関のの利用について学ぶ。また車椅子移動の評価や視覚障害者の移動について実技を通して学ぶ。			
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・車椅子自走における屋内・屋外移動時の注意点を理解する。・車椅子利用者の障害に配慮した適切な解除方法を理解する。・視覚障害者の移動時の介助方法と指導方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通して置く。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
	各コマにおける授業予定	移動動作(車椅子移動) 車椅子移動の基本事項、公共交通機関のの利用について学ぶ。また車椅子移動の評価や視覚障害者の移動について実技を通して学ぶ。			
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・食事の重要性と食事動作の知的活動および身体活動について理解する。食事動作の指導や影響を及ぼす要因を確認する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	食事動作 食事動作の基本事項と食事に具について学ぶ。また、食事動作への介入方法について学ぶ。			

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	日常生活活動学-②		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	403号室、5F実習室など
担 当 教 員	竹内 知仁	実務経験とその関連資格	作業療法士として病院・施設・地域で作業療法を必要とする対象者に対して作業療法評価から治療を実践してきた。MTDLP実践者研修終了			

《授業科目における学習内容》

作業療法士は生活の専門家と言っても過言ではない。対象者の作業・課題遂行上の問題を明確化・解釈して原因を推察していく一連の臨床思考過程には、ヒトの身体・運動機能の理解、運動・動作の分析的視点、異常運動を見極める観察眼やその原因を分析する思考力が必要であり、運動学的知識だけでなく状況判断・意思決定のための高次脳機能の理解が必須となる。本科目ではその基本的部分が理解できるよう、生活についてICFを通して考え、特に活動面(能力)の評価や観察による分析評価、介護と治療的介入の違いなどについて講義・実技・演習を通して学習していく。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題45%、筆記試験50%、準備・態度5%で評定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

■教科書：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習(中山書店)
■参考書：動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
作業療法評価学や身体障害治療学・老年期障害治療学などで利用する教科書や配布資料

《授業外における学習方法》

基本的に次の通り。
【事前学習】課題・学習内容の確認。
【事後学習】資料整理と復習。要点整理。レポート課題がある場合には課題を実施。

《履修に当たっての留意点》

- ・ 課題内容は、臨床実習での観察記録等のレポート課題の遂行能力を高めるものとなる。
- ・ 服装に関してはジャージとし靴下は白とする。その他身だしなみについては「機能訓練室・治療室での実習時のみなりについて」を参照。不備がある

		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第16回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・食事の重要性と食事動作の知的活動および身体活動について理解する。食事動作の指導や影響を及ぼす要因を確認する。	教科書、 配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通して置く。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
	各コマにおける授業予定	食事動作 食事動作の基本事項と食事具について学ぶ。また、食事動作への介入方法について学ぶ。			
第17回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・更衣、整容動作の手順や自助具について理解する。・片麻痺の更衣動作における注意事項を理解する。	教科書、 配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	更衣・整容動作 更衣・整容動作の基本事項、自助具について学ぶ。また脳卒中片麻痺患者の更衣動作について体験を通して理解する。			
第18回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・更衣、整容動作の手順や自助具について理解する。・片麻痺の更衣動作における注意事項を理解する。	教科書、 配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通して置く。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
	各コマにおける授業予定	更衣・整容動作 更衣・整容動作の基本事項、自助具について学ぶ。また脳卒中片麻痺患者の更衣動作について体験を通して理解する。			
第19回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・排泄の重要性と、排泄動作の方法を理解する。・排泄動作の評価と指導方法について理解する。・片麻痺患者の排泄動作における注意事項を理解する。	教科書、 配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	排泄動作 排泄動作の基本事項と排泄動作で用いられる用具について学ぶ。また排泄動作の評価や介入方法について学ぶ。			
第20回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・排泄の重要性と、排泄動作の方法を理解する。・排泄動作の評価と指導方法について理解する。・片麻痺患者の排泄動作における注意事項を理解する。	教科書、 配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
	各コマにおける授業予定	排泄動作 排泄動作の基本事項と排泄動作で用いられる用具について学ぶ。また排泄動作の評価や介入方法について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・入浴動作能力と浴室環境について理解する。・入浴で用いられる道具について理解する。入浴動作の指導方法を上げることができる。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。レポート課題。(45分)
		各コマにおける授業予定	入浴動作 入浴動作の基本事項と入浴の形態について学ぶ。また、入浴動作の介入方法について学ぶ。		
第22回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・入浴動作能力と浴室環境について理解する。・入浴で用いられる道具について理解する。入浴動作の指導方法を上げることができる。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
		各コマにおける授業予定	入浴動作 入浴動作の基本事項と入浴の形態について学ぶ。また、入浴動作の介入方法について学ぶ。		
第23回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・家事動作が何かを理解し、家事動作に影響を与える背景と要素を確認する。・家事動作の方法と道具を確認し、リスクや指導方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
		各コマにおける授業予定	家事動作 家事動作の基本事項、家事動作の評価について学ぶ。また、家事動作の介入や用具について学ぶ。		
第24回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・家事動作が何かを理解し、家事動作に影響を与える背景と要素を確認する。・家事動作の方法と道具を確認し、リスクや指導方法を理解する。	教科書、配布資料	【事後学習】レポート課題。(60分) 【ADLまとめ】ADL自立順序(難易度)について考察するレポート課題 →提出
		各コマにおける授業予定	家事動作 家事動作の基本事項、家事動作の評価について学ぶ。また、家事動作の介入や用具について学ぶ。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活活動範囲における国家試験の問題の特徴を掴み事例検討を行う前の知識の整理が行える	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
		各コマにおける授業予定	国家試験の過去問題の解説作り		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活活動範囲における国家試験の問題の特徴を掴み事例検討を行う前の知識の整理が行える	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
		各コマにおける授業予定	国家試験の過去問題の解説作り		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	・脳血管疾患、パーキンソン病、呼吸器疾患によるADL障害と指導方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(50分)
		各コマにおける授業予定	障害別支援1(中枢神経・内科系疾患) 各疾患におけるADL障害とその指導について学ぶ。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	・代表的な整形外科疾患(脊髄損傷、関節リウマチ、大腿骨頭部骨折、変形性膝関節症、脊椎疾患)によるADL障害と指導方法を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
		各コマにおける授業予定	障害別支援2(整形外科疾患) 各疾患におけるADL障害とその指導について学ぶ。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	・各回の到達目標を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
		各コマにおける授業予定	・各回の到達目標を理解する。		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	・各回の到達目標を理解する。	教科書、配布資料	【事前学習】前回の学習内容の復習。(5分) 次回学習内容に予め目を通しておく。(10分) 【事後学習】資料整理と復習。要点整理。(45分)
		各コマにおける授業予定	総復習		